

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導・教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケートの回答から、いじめや差別に対する学校の対応は昨年度より向上している。 ・素直で親和的な生徒が多いが、なかには級友や教師に対して心を開けない生徒もいる。 ・教育相談的な支援や配慮が必要な生徒が少しずつ増加している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣(岐農三訓)の指導徹底 (2) 生徒の安全と命を守る教育の推進 (3) 教育相談の充実 (4) 人格形成の促進 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会、生徒指導部会、いじめ防止等対策検討会議、特別支援委員会、人権同和委員会を通して、教員間の共通理解を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 遅刻指導・身だしなみ指導・啓発活動 (2) 登校時等の交通安全指導・人権教育指導 (3) 心のアンケート・迷惑調査等結果の活用 (4) 教員の資質向上と連携 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 過去のデータとの比較、外部(地域)からの評価 (2) 教員の客観的な判断 (3) 全ての訴えに対して迅速な対応 (4) 教職員への研修機会提供と生徒情報の共有 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者に対する教頭指導、過多の生徒に対する特別指導を実施。身だしなみ違反者に対する事後指導を徹底した。 ・生徒による登校指導やハザードマップ作成による啓発運動を行った。 ・生徒、保護者との懇談、外部機関との連携を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 身だしなみは整っているか。遅刻者数は減っているか。 ② 交通事故数は減っているか。マナーは守られているか。 ③ 生徒、保護者への対応は適切か。 	<ul style="list-style-type: none"> A(Ⓑ)C D A B(Ⓒ)D A(Ⓑ)C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○身だしなみ検査の方法を、生徒指導部主体に切り替えた。学科間格差がなくなり、合理的に行えた。 ○SNS利用時の情報モラルに関しては、昨年度より重ねて指導を継続してきた。多くの生徒が正しく理解し行動できるようになった。 ○教育相談担当が中心となり、心に不安を抱えた生徒に対して、担任・学年・スクールカウンセラー・管理職などがチームとして早期に対応することができた。 ▲コロナ禍で登校日数が減少したにもかかわらず、遅刻者数・交通事故数はともに前年度と比較して増加した。 ▲情報モラルに関して、未だに理解していない生徒が認められる。 ▲コロナ禍で集会が制限されたため、特に第1学年の集団行動・団体行動の定着が不十分である。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による新しい生活様式の定着を目指しながら、生活が制限されている中で起こる弊害を補完する取り組みを行う。 ・規範意識が低くけじめのない行動が散見されるため、岐農三訓の推進を更に踏み込んだ形で実施する。 ・様々な制約はあるが、多くの知識を身に付け、幅広い体験を通して視野を広げた人間性の育成を推進する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日:令和3年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・多様な生徒が増えているが、規律やマナーが守られるよう、適切な指導が行われている。
- ・コロナ禍での新しい生活様式で、時間の過ごし方への指導が必要である。
- ・生徒との対話を大切にし、そこから指導に繋げてほしい。
- ・体罰については、従前から言われているように絶対ないようにして、生徒の心をつかむ指導を進めてほしい。